

語り継がれた神話に  
興味つきない初冬の風物詩。



もろたぶねしんじ

美保関 諸手船神事 12・3 土 13:00頃～

2艘の諸手船(丸木船)に白装束姿の9人ずつの氏子が分かれて乗り込み、水を掛け合いながら漕ぎ競いあう諸手船神事。神事が行なわれる松江市美保関町の美保神社は、古い書物「延喜式」に出雲國嶋根郡の式内社として記載される由緒ある神社です。この諸手船神事は毎年12月3日に行なわれますが、『古事記』や『日本書紀』の「国譲り」の神話を今に伝える古い神事で、国の重要有形文化財となっており、是非一度は見ておきたい山陰の初冬の風物詩です。美保神社祭神の事代主神は「恵比須様」としても有名で、海上・漁業・商業などの守護神でもあり、せっかくなら何かお願いしない手はありませんよね。また美保関を訪れたなら、青石畳を敷き詰めた細い露地の散策もおすすめです。

■国譲りのあらまし

- 1●太古の昔、この国は天津神(天上の神)と国津神(大地の神・代表が大国主命)に分かれていたが...
- 2●天上の神の使い(武甕槌神)が出雲の国にきて、大国主命に「この国を天津神に献上せよ」と伝えた。大国主命は、自分の一存では返事ができないと言って...
- 3●釣魚や遊鳥をしに三穂碕(美保関)に出かけていた我が子の事代主命(恵比寿さん)の元に諸手船2隻で使者を遣わせ、判断をまかせた。(この下りを再現したのが「諸手船神事」)
- 4●事代主命は大国主命に国の譲渡を勧めると乗ってきた船の縁を踏み傾け、呪いの手打ちをすると、船はたちまち青葉の柴垣に変わり、事代主命はその中に隠れ去り、再び姿を現さなかった。(この故事を再現したのが「青柴垣神事」/毎年4月7日に開催)
- 5●国譲りに反対した事代主命の弟、建御方神は、武甕槌神との力競べに負け諏訪湖まで逃げて降伏してしまっただ。
- 6●武甕槌神は再度、大国主命に国譲りについて問うと、大国主命は立派な神殿(出雲大社)を建ててもらうことと引き換えに国譲りを承諾し、無事に国譲りが行われた。



■美保関の見どころ

かつて参拝道であった美保神社から佛光寺までの青石畳通りは情緒たっぷり。海辺で売られている干しイカや焼きイカにもそられます。「美保造り」と呼ばれる大社造りを2棟並べてつないだ美保神社本殿や、明治時代に建てられ、世界灯台100選に選ばれた石造、白亜の美保関灯台も必見。初日の出を見るにも最適だ。

■神事の見どころ

行事は12月1日から始まり、2日の宵祭りには、司の舞、巫女舞が奉納される。3日の当日は午前中に新嘗祭があり、午後からが諸手船の神事。

3日午後1時ごろ、海水で身を清めた約30人の氏子が美保神社拝殿に集合。巫女(みこ)が神楽を舞い、神官が楯子(かこ)と呼ばれるこぎ手や、かじ取りをする大櫂(かい)など、船に乗り込む18人を指名する。

2時30分頃、氏子たちは神官から楯子服を奪い合い、参道を駆け下って、港に準備された2隻の船に9人ずつ乗り込み、勇壮な太鼓の響きを合図に「ヤーヤー」と威勢のいい声を上げながら二手に分かれ、海上へこぎ出す。

2隻は、大国主命を祭る対岸の客人(まろうど)社の下までこぎ、船中から拜んだ後、岸まで競争。船が近づいたところで櫂を使って互いの体や船に水を浴びせ、岸でも再び水をかけ合う。水のかけ合いには相手を清める意味があるという。

互いに水をかけあいながら大きく円を描いて三度回り、ヘサキにたてかけてあるマカツという飾りを、どちらが先に美保神社の本殿に捧げるかを競い合う。

●撮影には脚立、200mm以上の望遠レンズがあると便利。



●アクセス/境港から車で15分  
JR松江駅からバス1時間、  
終点美保関車庫下車2分

●問い合わせ/美保関町観光協会  
TEL/0852-72-2116  
美保関町水産観光振興室  
TEL/0852-72-2181



神魂神社の御釜神事 12・13 火 14:30～15:00

松江市大庭町の古社・神魂(かもす)神社で、古式ゆかしく執り行われる「御釜神事」。この神事は、神社に祀られている出雲国造祖神・天穗日命(あめのほひのみこと)が大国主命(おおくにぬしのみこと)に国譲りをすすめるため、高天原から御釜に乗って大庭の里に天下られたという伝説がその由来です。その釜の前に農作物や酒が供えられ、厳かな雰囲気漂う中で、神職らが祝詞の奏上にあわせて華麗な舞いを奉納。神話に思いをはせながら、今年の収穫を感謝し、来る年の豊作を祈願して、神々の里の古式ゆかしい神事をじっくりと味わってみませんか。

●MEMO

神魂神社の本殿は桃山時代に再建された、大社造最古の遺構で国宝に指定されています。本殿横の貴布祢(きふね)、稲荷の両神社も、中世の建築様式を伝える建物で国の重要文化財。国宝にもかかわらず観光化されていない、知る人ぞ知るスポットです。

- アクセス/JR松江駅からバスで約20分 かんべの里下車、徒歩すぐ
- 駐車場/あり(15台 無料神魂神社駐車場)
- 問い合わせ/TEL.0852-21-6379(神魂神社)



清水寺の大梵焼祭 12・17 土 9:30～

千四百余年前に開かれ、厄ばらいのお寺として慕われる安来の清水寺。歳末恒例の行事「大梵焼祭」は、この一年間お護りいただいたお礼、お守り、縁起物に感謝して、天空の浄土、聖浄の地にお返しし、来る新しい年の幸運を祈るものです。境内には精進料理のお店もあり、お土産はやっぱり清水羊羹...でしょうか。

- 問い合わせ/TEL.0854-22-2151 清水寺(安来市)
- 駐車場/大型駐車場完備

母里市(もりいち) 12・25 日

安来市伯太町母里 目抜き通り

安来市母里の目抜き通りにズラリと並んだ露店。「母里市」は花木や正月用品竹細工製品などが販売される伝統の行事です。1831年から始まり、170年以上経過した今でも、歴史深い伝統の催しがしっかりと受け継がれているというからオドロキ!!ぜひ覗いてみましょう。

- 問い合わせ/TEL.0854-23-3340 安来市観光特産課